

■ 令和2年度 第12回 秋葉区自治協議会

日時：令和3年3月26日（金）午後1時30分

会場：秋葉区役所6階 601・602会議室

1 開会

（金子会長）

皆さん、こんにちは。先日、新潟日報にも取り上げていただきましたけれども、前回は、新潟市内初の試みということで、ズームを使ったハイブリッド会議ということでやらせていただきました。本当に皆さんのご協力をおもちゃまして、何とかうまくいったというのではないのでしょうか。非常にさまざまなものに対して柔軟性が求められる時代かなと思っていますけれども、とてもしなやかな、そして最近流行りの言葉でいうとレジリエントなどと言うのでしょうか。強靱さも併せ持った秋葉区自治協議会の本領が発揮されたのではないかと考えております。そして、今回は、もう第7期の最終回ということになりました。この2年間に渡り、また長い方は6年でしょうか。6年間に渡って秋葉区自治協議会委員の職責を本当に積極的に皆様にお努めいただきましたことを、改めて御礼申し上げたいと思います。

本当に秋葉区自治協議会の特徴というのは、議論だけではなくて、行動もする。議論と行動、その両輪が非常に活発であるということが持ち前であると考えております。特にこの1年は、この特殊な状況下で、なかなか思うようにやりたいこともやれなかった1年間だったと思うのですけれども、その中においても、本当に最後まで秋葉区自治協議会らしく、いろいろなことに活発に取り組めたのではないかと考えております。今回をおもちゃまして離任される方々もいらっしゃるわけですし、また、来期も引き続きという方もいらっしゃいます。いずれにしても、秋葉区を愛する市民の一人ひとりとして、今後も連携しながら秋葉区を盛り上げていければと考えておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

また、本日は、中原市長はじめ、本庁の皆さんにもご臨席いただいております。これにつきましても、最後まで秋葉区自治協議会らしく活発なご議論をいただければと考えております。それでは、本日もよろしくお願いいたします。

本日の報道関係ですけれども、新潟日報とFMにいつから取材の協力依頼をいただいております。写真撮影、録画、録音などを許可してよろしいかお諮りしたいと思います。いかがでしょうか。

(「異議なし」の声)

異議ないようですので、許可することにいたします。

では、最初に、ただいまから市長と区自治協議会委員との懇談会を始めさせていただきます。まず、中原市長より「令和3年度新潟市の取り組みについて」ご説明をいただきます。その後、新型コロナウイルスワクチンに関する市の保健衛生部からの説明の後、委員の皆さんとの意見交換を行います。懇談会の部分は、概ね1時間を予定しております。なお、意見交換につきましては、本日は区自治協議会委員との懇談の場であることから、ご発言は委員の方に限らせていただきたいと思います。

では、最初に中原市長、ご説明をよろしく願いいたします。

2 議事

(1) 令和3年度新潟市の取り組みについて

(市長)

皆さん、こんにちは。今日は、秋葉区自治協議会委員の皆様との懇談会ということで、貴重なお時間をいただきまして、大変ありがとうございます。また、日頃から秋葉区自治協議会の委員の皆様には、地域の協働の要としてご尽力をいただくとともに、新型コロナウイルス感染症の発生から1年以上が経過しましたがけれども、この間、感染拡大防止に多大なるご協力をいただいておりますことに、心から感謝申し上げたいと思います。

今日は、24日に新潟市議会が閉会いたしまして、来年度の新潟市の予算が可決されましたので、来年度の事業の基本的な考え方、事業の内容まではお話しする時間がないかもしれませんが、基本的な考え方、骨格につきまして、皆様方に説明をさせていただきたいと思っております。

まず、お話をさせていただく前に、年末から今年1月9日にかけて、ご存知のとおり、新潟市におきまして大変な大雪となりまして、市民の皆様を除雪対応について大変ご迷惑をおかけいたしました。ピークが1月9日であったわけですがけれども、新潟市は、このような大雪にならなければかき分け除雪で対応しているわけですがけれども、今回は異常降雪時対応に切り替えまして、ダンプを使って雪捨て場に運ぶ排雪作業も行いまして、昼夜を問わず除雪にあたりました。各自治会におきまして、自治会除雪をはじめ、ご協力をいただきましたことに、この場をお借りいたしまして、改めてお礼を申し上げたいと思います。

そして2月15日ですけれども、新潟市では、道路除雪検証会議を開催いたしまして、やはり情報発信、除雪体制、応援体制などが課題としてあるだろうということで洗い出

しまして、今後の改善への方向性を明確にしました。今後の除雪体制については、除雪協力業者も、毎年降るのであれば人材の確保ということも可能なのですけれども、新潟市の一つの課題というのは、数年に一度大きな雪に見舞われるということではないかと思っています。そうしたことから、マンパワーも不足いたしますし、また地域において高齢化が進むということで、新潟市の除雪力としては益々低下することが懸念されます。今後、市の除雪力を維持し、冬場の市民生活に支障が生じないよう、今後、新潟市として何を改善できるのか、また改善したとしてもできないもの、そういうことを明確にすべきだと思っております。今後、しっかり検証して対応してまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、新型コロナウイルスですが、先ほど申し上げましたように、発生から1年が経過いたしました。今、我々は第3波という局面にあり、その中でも2月には少し感染も落ち着くのではないかと思ったのですけれども、3月になり、特にここ10日間くらいでしょうか、10人前後の感染者が出ておまして、少し心配をしているところであります。昨日、市の対策本部会議も開催して、市民の皆様にも改めて注意喚起、そしてまた新潟市役所として今後取り組むべきことを指示したところです。

そして令和3年度予算ですが、こうした状況の中で感染拡大防止対策に加え、本市の明るい未来を切り拓くための予算にしたいという思いで編成をいたしました。

次のページ、1ページをご覧くださいませ。令和3年度の予算ですが、総額としては3,866億円ということで、昨年と比べますと44億円、1.1パーセントの減となります。コロナ禍の影響によって税収が大幅に厳しい状況の中ではありますけれども、直面する課題解決と将来に向けた投資をするために、例年にも増して工夫がいる予算編成となりました。なお、新潟市では、国から地方創生臨時交付金という交付金をいただいて、コロナ対策を行っているところですけれども、今年度の12月と2月に補正予算を組みまして、その金額を合わせますと総額4,000億円を上回る規模となります。

続きまして、行財政改革の取り組みについてです。私が市長に就任以降、令和3年度までの3年間、まずは集中改革を進めなければならないというような財政的な事情もありまして行ってまいりましたが、その生み出した効果をさまざまな分野に投資をしてきました。新型ウイルスという異常事態もありましたが、まずは順調に改革を進め、その効果が33億6,000万円となっています。その効果を活かし、例えば子育て支援などに投資をしてきました。私が市長就任当時小学6年生までであったこども医療費通院助成ですが、令和元年度に中学3年生まで拡大し、さらに4月1日からは高校3年生まで拡大いたします。これによって高校生までの子どもが医療機関を1回530円で受診すること

ができ、子どもの病気やケガにも安心して受診いただけると思っています。また、経済的に就学が困難な児童や生徒へ学用品費の支援をする就学援助制度については、本市は所得に応じた階層制を採用していますが、2か年かけ真に支援が必要な家庭により支援を手厚くしています。

次のページをお願いします。予算編成につきましては、ポイントは大きく二つありますが、一つは、先ほどから申しております感染拡大防止対策と経済社会活動の再興の取り組みが一つの大きな項目。そして後ほど詳しく説明しますが、2月に「選ばれる都市 新潟市」という、これからのまちづくりについて取りまとめさせていただきました。そうした取り組みを新年度予算に盛り込んで推進していきます。

次に、一ページ飛ばしていただきまして、グラフをご覧くださいませ。このグラフは、人口10万人当たりの感染者数ですが、2月28日時点ということで、少し前の数値であることをご承知おきいただきながら、政令市20市で比較すると、新潟市は絶えず少ない数字になっております。次のページをお願いします。しかしながら、これまでは市民の皆様のご協力によって感染を抑えられてきているのですけれども、先ほど申し上げましたように、この第3波という中であって緊急事態宣言も解除されたわけですが、全国的には一旦は感染者は減ってきていますが、新潟市は、解除後あまり感染数が変わらずきているということ、また、今、若干増えているということで警戒をいたしております。引き続き皆さんからのご協力をお願いしたいと思います。

次のページ。新潟市としては、先ほど申し上げました国の交付金ですとか、それから新潟市の貯金に当たります基金などを活用して対策を講じてきていますけれども、新潟市役所の中に経済社会再興本部という会議を立ち上げまして、各業界団体の皆様から直接ご意見やご要望をお聞きし、対策を講じてきております。

次のページ。今日、皆さんからご承知おきいただきたい大事な一つがワクチンについてです。これは、今日、私からではなくて、保健衛生部の田辺課長が来ておりますので、後ほど皆さんにお話をさせていただきたいと思っております。

次に、経済や社会活動、大変でありますけれども、これを再興するために、市内企業がコロナ禍に対応していくため、企業同士が連携をしたり、新規事業を行ったり、ITツールの導入を行ったりするビジネスモデルを転換させる取り組みに対して、新潟市は支援を行います。また、飲食店も打撃が大きいわけですが、飲食店を支援するための取り組みについては、昨年9月に発行しました30パーセントプレミアム付き「地域のお店応援商品券」、今年度は4,000件ほど、皆さんからご参加いただいておりますけれども、この「地域のお店応援商品券」の第2弾を、7月くらいになるかと思っております。

けれども、発行させていただきます。また、地域の割烹などを対象に、すでに3月1日からスタートしておりますが、地域で弁当交流応援事業についても、利用可能なお店を割烹に加えてホテルも対象にします。また、利用できる方の範囲を、これまでは例えば地域の自治会、PTAなどの活動に対して行っていました。今回は企業の皆様にもご利用いただけるよう拡充を行っております。

次に、観光分野の活動ということになります。私ども、これまでは旅行というと県外に行って、県外の観光地を見て戻って来るというスタイルでしたけれども、今、コロナ禍の中で、実は近場であっても我々が行ったことがない魅力的なところがあるのですよ。ということで、再発見するような、これをマイクロツーリズムと言うそうですけれども、そうしたものと、オンラインの活用など、新しい観光スタイルの構築を推進していきたいと考えています。オンラインとリアル、現実ですね、これを混ぜ合わせたハイブリッド型観光というものを推進したいと考えておまして、まずは、例えば酒蔵見学コースから広げていきたいと考えているのですけれども、実際に現地に行く前に試飲用のお酒をご自宅にお届けし、それを味わっていただきながらオンライン動画で事前に見どころを聞くことで期待感を高め、旅行当日は現地のお酒や食べ物を楽します。さらに旅行後に現地で気に入った商品をWEBサイトで購入できるようにし、実際に訪れた際の満足度やリピート意欲を高めていきたいということです。また、観光マインドの向上や消費活性化を図るとともに、MICE誘致についても今後の回復に向け、昨年拡充しました補助制度を引き続き継続します。また、市民の文化活動についてですが、これはやはり主催者の方々が責任をもって開催するというのは、まだコロナ禍の中で大変重いものがあります。文化活動の再開、継続に向けては、市民参加型の公演の開催などを新潟市として支援していきたいと考えています。

続きまして、「選ばれる都市新潟市～ウイズコロナ・ポストコロナ時代のまちづくり」についてです。コロナ禍で、皆さんご存じのとおり、人々の価値観ですとか、企業の意識が変化し、また、今、新潟におきましては、まちづくりの大きな転換期を迎えています。そうしたことから、今後の方向性とビジョンをお示しするため、今年2月に「選ばれる都市 新潟市」というまちづくりのビジョンを公表させていただきました。下段をご覧ください。信濃川を越えてと言うより万代橋を挟んでと言ったほうがいいでしょうか。「にいがた2km」というものをご覧いただきたいと思いますが、「選ばれる都市 新潟市」の内容ですが、これからのまちづくりの基本的な方向として3点にまとめました。

まず一つ目が、新たな都心軸の誕生です。ご存じのことかと思いますが、新潟駅周辺整備事業ということで、新潟が一大プロジェクトとして今事業を進めておりますけれど

も、この事業もかなり大詰めを迎えておりまして、いよいよ来年度中には全線高架化が完了し、併せてJR新潟駅の駅舎は、間もなく仮囲いが外れまして、新しい駅舎が古いところから南側に40メートルくらいでしょうか、奥まって見えるようになってくるかと思えます。また、それに伴って万代広場が広がる予定であります。また、古町地区におきましては、新潟市役所がふるまち庁舎ということで入っているのですけれども、古町ルフルというビルが完成し、三越跡地も再開発に向けて動き出しております。このような大きな節目を迎えていることから、図でお示ししました新潟駅から万代、そして万代橋を越えて古町と、ちょうどここが2キロメートルあるということから「にいがた2km」と名付けさせていただきました。このエリアを、改めて人、モノ、情報が行き交う稼げる都心となるよう活性化させたいと考えておりまして、この勢いを、中央区だけではなくて8区全体の勢いにつながるようまちづくりを進めてまいります。

次に8区のネットワークの深化と書いてありますけれども、これは、都心エリアと8区のそれぞれの事業者がお互いに連携し、新しい価値を生み出すことで波及効果を全体に広げたいという考え方です。かなり遡りますけれども、江戸時代、都心部と郊外である8区との関連性をこの図が示していますけれども、当時の新潟湊は北前船に象徴されるように大型の千石船で、大阪ですとか蝦夷地と交易をし、当時、廻船問屋という豪商が店を並べていたそうです。そして、図の新潟湊の丸印から矢印で郊外の方に、8区の方にそれぞれ向かっていますけれども、これが当時、新井郷川であったり、小阿賀野川であったり、加治川などの中小河川に沿って四角印で示されておりますのが、下り荷売却先ということなのだそうですけれども、何かと言うと、川に沿って市場が点在していたと。そして、北前船のシステムと同じように、船主が各所で米とか物資に付加価値をつけて売り買いし、仕入れ値と売値の利ざやを当時すでに稼いでいたということであります。こうした湊と郊外の田園地域を網のように結んだ河川を物資が行き来していたわけですが、舟運ネットワークによって新潟湊には豪商がいましたし、田園地域には大地主が繁栄していたということです。

次のページをお願いします。そうした江戸時代の舟運ネットワークと同じように、現在も都心エリアと8区との関係性は生きているだろうと考えておりまして、この秋葉区もそうですけれども、8区にはそれぞれ多種多様な人材がいて、事業者もいます。それから、地域資源もあります。農水産物もちろんあります。それらと、今、新潟市の都心エリアというところにデジタル技術を駆使する新しい事業者が少しずつ出てきておりまして、そうしたところと8区の先ほど申し上げた資源が連携、協業し、新たな価値を生み出して、そのことによって生み出された新たな価値を都心をとおして広く発信して

いこうということでもあります。

なお、三つ目の基本的方向は、ここに図のようなものはありませんけれども、新潟市は、これまで国、県と連携して、例えば高速道路ですとか、新幹線、空港などのインフラを整備してまいりましたが、今後もこうした拠点化のために、国、県と連携しながら推進していきたいと考えています。

次に、最後、今申し上げてきたことを取りまとめた図であります。図の左側から、先ほど申し上げましたように、コロナ禍により価値観、意識の変化が起こっているわけですが、そもそも新潟の魅力、また優位性というものは、都市部と自然豊かな田園地域が共存している暮らしやすさではないかと思っています。そして右側ですが、先ほど申し上げましたように、新潟駅周辺整備事業などを通じて新たな都心軸が誕生しますけれども、その都心と、8区にあります食や農、これがつながって、訪れたいまち、ビジネスを展開するまちを目指していきたいと考えています。そうした流れが好循環し、「選ばれる都市 新潟市」をつくっていきます。

次のページから、子育て、教育環境の充実、健康長寿社会の実現、暮らしやすさを市内外にアピールと、事業が用意されておりますけれども、今日、私に与えられた時間が20分ということで、大変恐縮ですけれども、新年度の予算の考え方だけ申し上げさせていただいて、この部分は、後ほど皆さんからご覧いただければと思っております。

私からの説明は、以上となります。

(金子会長)

中原市長、ありがとうございました。続きまして、新型コロナウイルスワクチンに関して、保健衛生部保健所保健管理課の田辺課長からご説明をお願いいたします。

(保健管理課長)

皆さん、はじめまして。保健衛生部保健所保健管理課の田辺と申します。よろしくお願ひします。日頃から、新型コロナウイルス感染症対策ということで、皆さんからマスクの着用や手洗い、そして手の消毒など、感染対策についてご協力いただきまして、ありがとうございます。本日は、貴重なお時間をいただきまして、新型コロナウイルスワクチンについて、少しご説明をさせていただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

ワクチン接種ですけれども、新型コロナ対策の一つとして非常に大きな期待がされており、本市では、今年に入ってから準備を進め、2月1日は保健所内に10人の専門チームを設置し、現在準備を進めているところであります。こちらの配布されているA4の資料で説明させていただきたいと思ひますので、ご覧いただきたいと思ひます。

この新型コロナワクチン接種ですけれども、ワクチン接種には接種券が必要になりま

すので、今回、まず 65 歳以上の方に、こちらの黄色の封筒で接種券を順次送付させていただいております。すでに届いたという方もおられるかと思いますが、新潟市は広いので、今月末までには届くと思いますので、ご確認をお願いします。65 歳未満の方については、準備ができ次第発送ということになりますので、しばらくお待ちいただくという形になります。

皆さん、報道でご承知かと思いますが、ワクチンの供給が非常に限られており、特に 4 月にはあまり入ってこないということで、本格的な実施、予約や接種については、今のところ 5 月以降ということを見込んでおります。また、本市では、65 歳以上の高齢者の方が約 23 万 3,000 人おられまして、一斉に接種していくということは非常に困難だということで、感染時の重症化リスク等を考え、75 歳以上の方から接種を実施していきたいと考えているところです。接種までまだ少し時間がかかりますので、接種券については大切に保管していただくようお願いしたいと思います。

また、3 月 28 日（日）に「市報にいがた」の臨時号というものを発行することになっております。こちらにおいて、ワクチンの有効性や接種までの流れなどを掲載させていただいておりますので、ご確認をお願いしたいと思います。また、今日配布させていただいた資料の下のほうにも書いてあるのですが、同じく 28 日にワクチン接種専用のコールセンターというものも開設しますので、今後のお問い合わせ等については、こちらの電話番号をお願いしたいと思います。

最後に、繰り返しになりますが、皆様にお願いですけれども、お知り合いの方から接種券が届いたのだけれどもとのお話がありましたら、今日配付させていただいた資料を参考に、予約、接種は 5 月からになりそうだよと、それからそれまで接種券は大切に保管してくださいと、3 月 28 日の市報臨時号が発行され、コールセンターも設置されますよといったようなご案内をしていただければ、非常に幸いだと考えております。説明は以上となりますけれども、引き続き感染対策にご理解とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。本日はありがとうございました。

（金子会長）

田辺課長、ありがとうございました。

それでは、これより意見交換に移りたいと思います。いつものことながら、できるだけ多くの委員からご発言いただきたいと思いますので、ご意見は簡潔をお願いしたいと思います。それでは、ご発言したい委員、おられましたら挙手のうえお願いいたします。いかがでしょうか。

（島倉委員）

公募の島倉です。よろしく申し上げます。

今日は、市長さん、わざわざおいでくださいましてありがとうございます。新潟市の新年度の予算について今お話を伺って、医療費がここまで無料になるということ、本当に待ち望んでいました。よかったなということで、これは素晴らしいと思いました。少し残念なのは、就学援助の適用が少し狭められて、今まで受けていただいていた人が1,200人ほど受給できなくなるという話が新聞に掲載されていましたが、コロナ禍でとてもいろいろ生活が大変になってきているのに、やはり子どもが本当に肩身を狭くしないで、皆笑顔で学校に行けるように、ぜひ、まず狭めないことをお願いしたいと。予算は通ったわけですが、それと階層が4階層あるのですよね。階層も変更になる方がいて、受給するお金が減らされるという方も生まれてくるということで、子育てしやすい新潟市のキャッチフレーズをぜひとも大事にさせていただきたいという思いです。

(金子会長)

ありがとうございます。それでは、いかがでしょうか。中原市長、何かコメントをいただければと思いますが。

(市長)

大変大事な点をお話しいただきまして、ありがとうございます。まず、大きなお話からさせていただきたいのですが、3年間集中改革をなぜやっているかということになりますが、新潟市の基金が、かつては三百数十億円あったのが、私が就任したときに33億円ということで、貯金に当たる基金の減少、そして、今、新潟市、すべての自治体がそうなのですが、益々課題というものが多岐にわたってきて、毎年度同じことをやっている義務的事業分野もありますけれども、年度によって事業が変わっていきます。事業の内容だけではなくて、予算の額も変わっていかざるを得ません。こうした状況の中で、持続して新潟市が市政運営をしていかなければならない中で、3年間というまずは集中改革に取り組ませていただいています。そして、改革ということですから、先ほど私が申し上げたことも医療費についてはいい部分、しかし一方ですべてがいいわけではなくて、やはりいろいろなところに影響が出てきているということも事実だと思っています。しかし、その影響が出る部分については、それぞれ利用状況ですとか、それから先ほど申し上げました、少子高齢化の中で持続的にこれからも続けられるかどうかという観点の中で改革をさせていただいているつもりです。確かに今回、そうした形で影響が出ていらっしゃる方がおりますけれども、これは、国の生活保護の基準に合わせてほとんどの政令指定都市がやっているのですけれども、新潟市はそれよりも以前の基準でやってきて対応が遅れてきているというようなことから、今回、こうした結論にさせていただ

いたところでございますので、何卒ご理解をお願いしたいと思っています。

(田中委員)

満日コミュニティ協議会の田中と申します。よろしく申し上げます。

11 ページになりますか、マイクロツーリズムという聞きなれない言葉が入っておりますけれども、説明でよく分かりました。新しい観光スタイルということで推進するということですが、確かに経済の、社会の活性化ということでは大いに賛成であります。そして、私も確か利用したと思います。ですので、もっと貢献をしたいと思っております。そこに併せまして、私は秋葉区の住人ですので、地元の魅力とか、そういうものをそこに含めて、ぜひとも皆さんから再発見をしてもらいたいという、そういうことも含めてやっていただきたいと思います。というのは、秋葉区に限らず、8区ありますけれども、それぞれ皆魅力があると思うのです。発信もしていると思います。ただこの発信は、やはり個々になっているかと思うので、それをまとめたような形で、その辺は分からないところもあるのですけれども、各区の魅力をまとめたような小冊子みたいなものがあれば、それを各旅館とか、そういうところに置いて、旅館を利用して泊まるイコールその魅力を発見して回ってみるというようなことをやってみたらどうかと思っています。そういうネットワークづくりでしょうか。提案なのですけれども、そういうところをぜひやったらどうかと思っています。

(金子会長)

市長、いかがでしょうか。

(市長)

ありがとうございます。コロナ禍になりまして、ご指摘のとおりですけれども、緊急事態宣言が発出されたり、そして外出の自粛が求められたりということで、なかなか県外に行くことも憚れます。しかし、地域の中には、我々見つめ直してみますと、実は何々温泉がある、何々山がある、素晴らしいものがたくさんあります。今はそういう中で行動せざるを得ません。また、改めて考えてみると、そういうものを再発見する時期ではないかという中で、マイクロツーリズムを皆さんから取り組んでいただくことによって新潟市と言ったらいいでしょうか、新潟県内の皆さんが元気づけられ、事業を継続することができるか、そういうことにもつながっていくのではないかと考えています。今ご指摘がありましたそれぞれの魅力について、確かに取りまとめているのですけれども、今お話しいただいたように、8区がつながったものがあるかどうか。飲食にしてもそうですけれども、そういうものがあると言われるとどうかと思っていますので、今後検討させていただきたいと思っています。

(金子会長)

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

(伊藤(治)委員)

スポーツ協会の伊藤です。

知識がないので聞きたいのですが、新型コロナウイルス感染症のワクチンを接種したとして、どんどん変異種が出ているということ。変異種も2週間に1回くらい新しいコロナが出てくるということは、ちょうどインフルエンザウイルスみたいに、毎年新しいワクチンを接種していかなければならないのだろうかというような疑問が一つあります。その辺、ご存知でしたらお答え願いたいと思います。

(保健管理課長)

ワクチン接種については、今年は予防接種法の臨時接種ということで、これは一人の方が2回接種するのですけれども、来年以降どのような形になっていくかというのは、正直、今はまだまったく決まっていないという状況でありまして、まず今年、対象者の方に多くの方から接種していただくということを目指して今やっているところです。来年については、決まり次第というか、またお知らせすることになるかと思えます。

(金子会長)

ありがとうございます。では、青木委員お願いします。

(青木委員)

金津コミュニティ協議会の青木と申します。

まず、御礼が2点とお願いが1点なのです。まず、御礼でございます。市長から昨年の1月、金津ビジターセンターまで、移住モデルということで現地を激励していただきありがとうございました。その後もなかなか適当な物件が見つからなくて、今、作業が中断しておりますけれども、また進めていきたいと、そのように考えております。ありがとうございました。

御礼の2点目でございますけれども、昨年来感染拡大防止ということで、コミュニティ協議会の活動がほとんど自粛、もしくは中止になっているのですけれども、ただ、この災害とコロナの関係ということで、金津コミュニティ協議会が昨年、皆さんの理解とご協力をいただきまして、感染渦の中で防災訓練を実施いたしました。その際、区の担当の方から本当にきめ細かいご配慮、あるいは助けていただきまして、ありがとうございました。今年もやる予定なのですけれども、また引き続きご支援なりご協力いただければと、そのように考えておりますので、よろしく願いいたします。

それから、一つお願いなのですけれども、先ほど市長が今年の予算をいろいろ説明、

報告されましたけれども、その中に、私が聞き落としていればあれなのですけれども、防災に関することがなかったような気がしたのですけれども、そのようなことで、今後、防災の関係についてもそのように配慮していただければと、そのようなお願いでございます。

(金子会長)

では、一言コメントをいただければと思います。

(市長)

ありがとうございました。日頃から、防災訓練ですとか、地域の見守り活動にピース金津の皆さんから大変ご尽力いただいて、改めて感謝申し上げたいと思っております。また機会がありましたら、大事な取り組みをやっていらっしゃるので、私も邪魔させていただきたいと思っています。

防災の次年度の事業につきましては、今日、皆さんにご説明する時間がありませんでしたが、それぞれ、今、コロナが発生してから、特に分散避難とか、避難所において感染症の対策を行ったり、また旅館やホテルとの締結をやったりということで、防災対策も進めておりますので、今後、機会がありましたらご説明させていただきたいと思いません。ありがとうございました。

(金子会長)

ありがとうございます。

(小林委員)

中央コミュニティ協議会の小林と申します。よろしく願いいたします。今日は、本当に忙しいところおいでいただきまして、ありがとうございます。

マイクロツーリズムの推進という、新しい観光スタイルの構築、推進というのは、私どももコミュニティ協議会として地域を活性化するための一つの手段として、新津地区を地元の人たちのガイドで回るといような、地元ガイドというものをこれから推し進めていこうということで二、三年前から取り組んでいるのですが、これは大変大事なとかなと思います。

それから秋葉区の場合、選ばれる都市という中の、その魅力の中の一番大事な部分が秋葉山ではないかと思うのですが、一つ問題があります。秋葉山には非常にいい遊歩道が、名前のついた木もれ陽の遊歩道ということで、中央地区から金津に向かっての道がございますが、まず困っていることが一つ、トイレがないのです。けっこう長いのですけれども、1か所くらいでいいのかなと思うのですが、ぜひ、どこかにトイレを設置していただけると嬉しいということと、それから山に入ると自分がどこにいるか分からな

いのです。そこでできれば、人が多いところだけでもいいのですが、できれば公共のWi-Fiの環境を整えていただけると、スマホさえ持っていれば今自分がどこにいるかが分かりますので、ぜひそういった辺りをドッキングさせて構想していただくと、かなり新しい人が入って来るのではないかと考えています。ぜひその辺のところ、お考えいただくとありがたいです。よろしく願いいたします。

(金子会長)

それでは、市長、恐縮ですが。秋葉山をどのくらいご存知かという辺りも。

(市長)

ありがとうございます。よい指摘をしていただいたと思うのですが、Wi-Fiについては、なかなかすぐには難しいかなと考えています。また、秋葉山のトイレにつきましては、ここだけではなくて、各区に行きますと、海岸沿いのここにですとか、ジョギングの道路のここに1か所トイレがほしいとか、やはりトイレの要望がたくさん出てまいります。秋葉山のトイレにつきましては、区長と相談しながら検討していきたいと考えています。

(金子会長)

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

(渡邊委員)

渡邊と申します。ごめんください。

専門で子育て支援をしております、この度、多胎児支援に重点を置かれて大変ありがたいことだと思っております。個人的に産前・産後ケア事業について調べておまして、新潟県内30市町村のうちアウトリーチ、デイケア、宿泊のいずれかをしているところが12市町村しかありませんでした。ですので、18市町村はどれもやっていないという現状です。というのも、市町村の任意事業ですので、その辺に対して県でぜひ情報提供ですとか、情報共有の場を設けていただけたらいいのではないかと考えております。

(金子会長)

県で。

(渡邊委員)

はい。市町村同士がどのような取り組みをしているかということ、隣が、ということをご存知ないという状態なので。

(金子会長)

では、まず新潟市がリーダーシップをとってという、そういうニュアンスでしょうか。

(渡邊委員)

はい。後方支援をしていただけないでしょうかというご提案です。

(金子会長)

では、市長、お願いします。

(市長)

ありがとうございます。この点について、県とよく連携しながら対応していきたいと思えます。ありがとうございます。

(佐々木委員)

ディンプルアイランドの佐々木と申します。秋葉区内で放課後児童クラブを運営しております。いつもお世話になっております。

20 ページの子育て・教育環境を充実というところで「G I G Aスクール構想の推進」とあるのですが、4月からG I G Aスクールの開始ということで、3月までのG I G AスクールのためのW i - F i 環境工事を児童クラブでは進めてまいりました。今、子どもたちがぼつぼつとタブレットを持って下校してきているのですが、家庭に持ち帰ってG o o g l e からY o u T u b e をよく見るようになりました。お家の方も言っていたのですが、タブレットを持っている時間が非常に長いということで、持って帰ってくるとずっとそれで遊んでいる。外に出ることがな少なくなるということで、これからどのようにそれに対応していけばいいのかということ、保護者の皆さんも不安に思っているし、そして児童クラブでもどのような対応をすればいいのかということをととても迷っているところであります。これからもしかしたらマニュアルが完成するかもしれないのですが、今後の新潟市の動向を教えてくださいなればと思います。

(市長)

ありがとうございます。大事な点をお話いただいたと思っているのですが、私自身があまりよく承知していなくて、大変申し訳ありません。新年度から本格的に始まっていますが、いい点と、これから教育現場で期待感も大変高いと思うのです。一方で、今ご指摘があったように、子どもたちがどのようにそのタブレットを扱うか、また情報を扱うかという問題が課題としてあると思います。こうした点については、教育委員会でも把握していると思いますので、しっかりそうした対策といたしますか、学校を通じて保護者の皆様、生徒にはもちろんなのですが、保護者の皆様に伝えていけるように対応していきたいと思えますので、よろしくをお願いします。

(金子会長)

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

(伊藤(直)委員)

公募の伊藤と申します。

二つあるのですけれども、一つは、今、仙台とか山形市で感染の爆発現象が起きているけれども、山形市は隣ですよ。仙台も新潟と似たような都市だと思うのです。このままでは新潟市もその恐れがあるのではないかと思います。従って、ワクチンは4月は全然入ってこないというお話でしたし、5月にならないと接種も始まらないということですから、この間、至急、ワクチンに頼らない対策を、抜本的なことをやってもらいたいと思います。それには、やはりPCR検査、これを何とか深く広くやって、感染の状況を地図を作るようにということが大事かと。その辺のことは、どうお考えでしょうか。

政府は一日1万件などと言っているし、専門家は30万件くらい必要だと。最低10万件必要だと。一日ということで計算すると、新潟市は一日600から700件くらいやらないとだめ。専門家の言うとおりの10万件だとすると。そういう感じになるのですけれども、今、実際、一日何件くらいやっているのでしょうか。新潟市としては。

(保健管理課長)

新型コロナのPCR検査については、昨年、ちょうど1年前くらいのときは、本当に保健所でしか検査ができなくて、発熱のあった方などもすべて保健所でやっていたのですけれども、その後、新潟市医師会新型コロナ相談外来といったところでもできたり、それから市内の医療機関の中でも検査が広くできるようになってきていまして、症状のある方については医療機関にご相談いただいて、多くの方が検査を受けられるようになっていきます。

一方保健所においては、感染者が出た場合に保健所に届出があるので、そうすると濃厚接触者という方を調査させていただいて、濃厚接触者については保健所で検査をします。ただ、濃厚接触者に当たらなくても、例えば福祉施設で感染者が出たとか、学校で出たとか、そういった場合には、濃厚接触者に当たらない場合でも広く検査をしております。

今、実際に市内の医療機関で全体でどのくらい検査がされているかというのは、すみません、今手元に持っていないのですけれども、私たちが検査している部分で言うと、最近少し発生が増えておりまして、一日に100件くらいは今検査をしているという状況にあります。

(伊藤(直)委員)

まだ少し足りないという感じですよ。100件くらいではね。600から700くらい必要

かなと思っているのですけれども、そうしないと全体像がつかめないという。大事なのは、医療機関とか福祉施設とか、高齢者施設はおかげさまで手がついているようだけれど、そのほかで必要なところは、経費はかかっても仕方ないということもありますので、できるだけ予算を配布していただきたい。財政が苦しいのは分かりますけれども、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(市長)

ありがとうございました。おっしゃるとおり、最終的に陽性であることを確認するためにはPCR検査などで確認しなければだめなわけですが、昨年、新型コロナウイルスがかなり発生しましてから、新潟市では行政検査は着実に上がってきていて、今、田辺課長が申し上げたように、今新潟市では、濃厚接触者でなくても、感染が出たところを幅広く行政検査で対応しております。当時、感染が発生したときに比べますと相当の数の検査をいたしています。それに加えて、皆さんが通っておられるような市内のかかりつけ医の皆さんにもご協力いただきながら、今、検査の数が拡大しているところでもあります。これは行政検査ではなくて民間検査ということになるためお金はかかりますけれども、今、社会的な出張に行ったりするときに、会社側が証明を求めるようなことがありますので、こうしたものについても、今までと比較にならないほどの金額で検査ができるような検査機関が、新潟市内に民間の中でこれから出てくると思っておりますので、行政としましても引き続き幅広く検査ができるように取り組んでいきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひします。

(松田委員)

新関コミュニティ協議会の松田と申します。私が発言しますと、個別的な要素が含まれるものですから控えていたのですけれども、せっかくの機会でありますので1点、学童に関する、特に小規模事業所に対します支援の考え方についてお聞かせ願ひればありがたいと思ひます。

今、年々、私どもの地域もそうですし、他の地域とか、いろいろ漏れ伝わってくるのは、年々学童保育に対するニーズが広がっていると私どもは受け止めております。年々の利用者の要望などを見てみますと、そう感じます。そこで、すでに2年前から多大なご支援をいただいておりますし、特に今回のコロナでは大きなお力添えをたまわりました。そこについては、この場をお借りして感謝申し上げますが、小規模事業所の運営について、常々いろいろ申し上げているのですけれども、その辺の考えと伺ひますか、今回、事業財政改革で生み出されたその財源を、有効に子育て世帯への支援に振り向けるというお話がスポット的であったのですけれども、この中には含まれていないと思うの

ですけれども、通常の財政の中でお考えいただいてご検討が進んでいるのかどうか、ぜひ小規模事業所に対しますご支援の拡充と申しますか、その辺、もしお考えがありましたらお聞かせ願えればありがたいと思って発言をさせていただきました。

(金子会長)

念のため、小規模事業所というのは、どのようなものを想定しておっしゃっていますか。

(松田委員)

20人未満。新潟市の学童保育に関するいろいろな規定がございます、それを受けて私どもは運営しているのですけれども、40人以上であると、それなりの運営に関して、基準と学童のニーズに応じた補助という仕組みになっているのです。そうしますと、十分ご承知だと思うのですけれども、その辺のところ、私ども、小規模であるが故に苦しい面があるものだから常々お願いしているということで、ご検討いただいていると思うのですけれども、その辺であります。すみません。長くなりました。

(市長)

ありがとうございます。日頃から学童保育の運営にご協力いただきまして、大変ありがとうございます。問題意識としては承知しているのですが、細かいところまで私が把握し切れていませんので、区長から一言述べさせていただきます。

(区長)

コミュニティ協議会で学童クラブを運営していただいて、本当にありがとうございます。人数規模の要件というのは、新関コミュニティ協議会、本当に気になるころだと思っています。本庁のこども未来部とは、毎年子どもの数が変わっていくわけですので、今、制度のあり方について勉強会を常時行いまして、情報交換をしているところです。今後、またお知らせしていきたいと思っております。

(松田委員)

ありがとうございました。ぜひ、よろしく願いいたします。

(金子会長)

ありがとうございます。では、残り時間も少なくなってまいりましたが、いかがでしょうか。

(蓮沼委員)

西部コミュニティ協議会の蓮沼です。

ワクチン接種について教えていただきたいことが一つありまして、私のところにも接種券というものが届きました。ただ、私の母親がもう九十幾つの高齢で介護も若干必要

かなということで、今現在、新潟市ではない姉の家にお世話になっているということなのですけれども、新潟市以外でこの接種というものを受けることができるかどうかということで教えていただきたいと思います。

(保健管理課長)

今回、接種券については、住民票があるところに送らせていただいております。今、新潟市以外にお住まいということですので、そちらで一定の条件が合えば受けることができますので、住民票所在地以外での接種については、国からも基準はある程度示させているのですけれども、それぞれのご事情があるかと思っておりますので、コールセンターにそのご事情の内容をお話しいただいて、詳細の案内をさせていただく形になりますので、できる場合はあります。

(市長)

先ほどの変異種なのですけれども、田辺課長からご説明させていただいたとおりなのですが、変異種については、新潟市はすべての陽性者に対して簡略な検査を行って、それを国立感染症研究所という国の機関に送って、そこが最終的に確定して県を通じて公表しております。現時点においてということになりますけれども、皆さんから、今、特段強くご心配していただくような状況ではないと思っています。

(金子会長)

ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。では、これが最後のご意見ということで、お願いします。

(田中委員)

24 ページに「経済の活力を生み、雇用を創出」というところがありますけれども、そこで新たな工業用地に進出する市内の企業ということで支援を拡充ということですが、その辺のところ、これまでそういう会社関係が進出しているような状況とか、その辺のところはどうなのだろうと。現状はと。その辺のところ少し気になりまして。と言いますのは、新潟市に経済部の成長産業支援課というのがあるかと思うのですが、そこで数字を見ると、新潟市というのはすごく政令都市の中でダントツ、トップに近いのですね。例えば、割安な水道とかガスとか、それから人材の宝庫、いわゆる教育のレベルがすごく高いとか、それから住みよさでも大変高評価を得ているとか、恵まれた生活環境だと。政令都市の中ではすごく高い位置にあるのですね。こういう環境の中で、もっとそういう会社に進出してほしいのですけれども、その辺のところ、もっと情報を発信すればさらにいいのかなと思ったものですから、今、現状はどうなのかなと。その辺のところをお聞かせ願いたいのです。

(金子会長)

それでは市長、お願いします。

(市長)

ご質問ありがとうございます。新潟市では、今、市内8区の中に八つの工業団地を造成して、民間の方々が推進しています。コロナが始まる前の段階の調査では、その工業用地に約8割くらいの進出企業の予定がありました。しかし、今、その後コロナが発生して、調査をしてみますと、約2割くらい減少しているような状況で、進出意向が2割くらいの減少、コロナの影響を受けているような状況の中で、新潟市としてしっかりと造成した工業用地にそうした企業の皆さんから進出してきていただくということで、新年度、さらに支援の拡充を行いたいと考えているところです。

(金子会長)

ありがとうございます。

ちょうど予定の時間になりましたので、意見交換は以上とさせていただきたいと思えます。中原市長、本日はお忙しい中お時間をつくっていただきまして、ありがとうございます。田辺課長もありがとうございました。

では、これをもしまして市長と区自治協議会委員の懇談会を終了いたします。

では、10分間休憩した後に、また会議を続行させていただきます。

(2) きらめきサポートプロジェクト活動報告について

(金子会長)

それでは、次第の2番に入らせていただきます。次第の2番は「きらめきサポートプロジェクトの活動報告」となっております。今年度採択した5事業について、本日、こちらに各団体の方々からお越しいただいております。ご報告をいただきたいと思います。なお、誠に申し訳ございません。時間が非常に限られておりまして、ベルで時間をお知らせさせていただきたいと思っております。4分30秒経過でベルを1回、5分経過でベルを2回鳴らさせていただきますので、時間厳守にてお願いできればと思っております。

では、まず第1部会長の小林さんから、まず全体的な説明から入っていただきたいと思います。

(小林委員)

第1部会の小林でございます。この度、きらめきサポートプロジェクト、全部の事業が完成しまして、今日は、皆さんにその成果を話していただくこととなります。皆さん、

よろしく願いいたします。

それでは、まず第1の「秋葉山地区MTBコース作成」ですが、これは私が話をしますので、導入だけ。この秋葉山地区マウンテンバイクコース作成というのは、はじめはどうなるのかなと思っていましたが、今まで秋葉区の奥が死んでいた部分がありまして、その部分が活性されるかなということでやったのですが、非常に思った以上に効果があったというか、激変したといいますか、今まで人が入り込めないような状況のところ非常に明るくなりまして、さらにこれを作った後、町内会がかかわっているものから、皆さんのこれが終わってからの構想がいろいろと発展しているみたいで、とてもいい事例になるのかなと思います。では、よろしく願いいたします。

(秋葉区田家2丁目町内会)

それでは、発表させていただきます。皆さん、お疲れでしょうから、できるだけ手短にお話ししたいと思います。

この計画は、今、お話がありましたように進めているのですけれども、最初は、今年度の事業として、田家2丁目の町内会として計画していなかったのです。ところが町内の若い人たちがMTBという自転車で山を駆け巡りたいという熱い思いがありまして、それに応えるべくやろうということで始めたら、いろいろな方にご賛同いただきまして、この際、山を明るくきれいにしようということになりました。やり方は、山の中を自転車で走り回るコースを全部手で鋤を持って2コース造りました。あとは、それに付随する道路と自転車兼用道路を造りました。あとは、それと兼用する道路については、コンボを入れてガンガンとやりました。手作業と機械ということでやらせてもらいましたけれども、ボランティアで参加した協力者もいろいろな意見を出しながら、現地の地形に適応した特色ある二つのコースを作成することができました。

それから、自治協議会の部会責任者から現地に行ってもらって、コースを作成する予定の箇所に希少植物があるというお話がありまして、ここをやってはだめだということで、今年の4月に現地に行っていて、希少植物を分類して、それをどう保護するかなどを決めていただくということになっています。あとは、建設課の担当者から補修作業専用道路に倒木の危険性がある立木があるということで、指摘を受けました。いわゆる杉の木の根元を削ったものですから、これは倒れると危険だというご指摘がありました。

今後の取組みとして、区役所が指定した立木の伐採、それから希少植物の保護、それから新規子ども向けの初心者コースを新たに造ると。もう一つは、新規上級者、または中級者のロングコースを作成すると。こういうものが今後の取組みになっています。

れども、いずれも秋葉区の建設課に許可が必要でございますので、勝手にやるわけにはいきません。

それから、今実施したい作業で困っていること。コースに真砂等を敷きMTBコースをより安全に強固にする。これは、4月2日から始める予定にしています。これは手作業ですので、ほかにお金はかかりませんので、ボランティアでやります。2番目、メンテナンス道路に再生砂利等を大量に敷きたい。今はぐちゃぐちゃしていますので。敷きたいけれども、予算がないということで泣いています。それから、新規コースの設計を行いたいが、許可されるか心配。それから、新規初心者向けバンプコース、山を造りたいのですが、土が不足していると。去年は工事が少なかったので土が出なかったと。いい土が必要なので、ぐちゃぐちゃするようなものはだめなので、土壌改良をやっていただけるということでお話をお願いしてあります。

おしまいに、自治協議会担当委員、秋葉区役所関係の皆様大変お世話になり、何とか目標に近づいて感謝しております。令和3年度もご指導とご協力、お金の用意をお願いしますという意味も含めています。一番下は、伊藤委員からのコメントでございます。公園がより美しく利用しやすくなると。MTB愛好者や公園利用者が訪れ、地域活性化につながっていくことを大いに期待するという、嬉しいお言葉をいただいております。そのようなことで、終わります。ありがとうございました。

(金子会長)

田家2丁目町内会でしたが、いかがでしょうか。何か、委員の皆さんからご質問はございますか。

(渡邊委員)

渡邊です。

期間等に3年となっておりますが、来年はまだ決まっていないので、もし決まったらいいのですが、決まらなかった場合にはどのように活動されるのか。今のところ決まっているところがあれば、教えていただきたいのですが。

(田家2丁目町内会)

募集が7月くらいになるわけですね。そうすると、一番仕事がしやすい4月から7月の間が空くのです。ですから、お金を伴わない手作業、土を削って、去年運び上げた土がありますので、それを入れるということくらいしかできません。だから、継続する作業はできないということで、このようなことがあっていいのだろうかと思って、個人的には悲しんでおります。

(金子会長)

申し訳ありませんが、お時間の都合で次に進めさせていただきたいと思います。

では、次の事業については、青木委員からご紹介をお願いします。

(青木委員)

第1部会の青木と申します。よろしく申し上げます。

命によりまして、新潟市防災士の会秋葉支部の皆さんによります「防災手帳の作成・配布及び活用のための防災講習会等の開催」の事業につきまして、導入を簡単に説明したいと思います。今年、東日本大震災から10年になりました。しかしその間、各地で何回か地震が発生して、甚大な被害が発生したのが事実でございます。ついこの前、2月13日、それから3月20日にも震度4の地震が発生いたしました。この地震の発生におきまして、政府の地震調査委員会では、結果的にはこれからも震度5以上の地震がくる可能性がありますよと、そういう見解をまとめまして注意喚起をしております。また、当秋葉区におきましても、1月11日までの三日間、72時間で110センチという観測史上最多の降雪がありました。そのときに、亡くなった方、けがをされた方、死傷事故が発生しております。このように予測不可能、もしくは予測はしたとしても避けることのできないのが自然の災害でございます。特にこの秋葉区におきましては、今から53年前、昭和42年の8月、羽越水害がありました。甚大な被害が発生しましたが、その後、幸いにして大きい災害はありませんでした。そのような関係で、住んでいる方の危機管理意識、若干欠如しているのも否めない現状かと思っております。

このような現状に対しまして、住民の意識を改革して災害があった場合は命を守る、あるいは被害を少なくする、こういう減災を目的にしまして、新潟市防災士の会秋葉支部の皆様、これは支部長の田辺さん以下20名の方がおられるのです。この方が、過去に学びながら先見性と想像力をもって有事の際は即活用できると、このようなコンパクトな携帯式の防災手帳を企画、立案、作りました。大変ご苦労さまでございました。この活用方法については後で説明があると思いますけれども、この結果でございますけれども、見られた方、活用された方が、非常にコンパクトで分かりやすいということで、非常にいい好評を得ております。また、防災につきましては、国民危急の願いでございます。この国民危急の願い、付託にこの事業が非常に的を射た仕事をしていると、そのように考えておられて、素晴らしい事業であると思っております。詳細につきましては、防災士の方から説明をお願いしたいと思います。それでは、よろしく申し上げます。

(新潟市防災士の会秋葉支部)

ただいま紹介いただきました新潟市防災士の会の田辺です。

私どもは、今回の大震災から10年という節目になります。それから、最近も地震が

あったというようなことで、災害というものは待ったなしで押し寄せてくるということ
を前提といたしまして、そのときにどうしたら助かるのか、それがまず第一ということ
の観点から、この防災手帳を区民の方々に配布し、またそういったものに対する防災意
識を高めてもらうという一助にしたいということでやらせていただきました。私どもだ
けの力だけではとてもできなかったものですから、今回、協議会との協働ということで、
各区民に対しますPR、資料の配布、手帳の配布、こういったものができましたことは、
非常に効果があったのではないかと考えております。

新津というのは、地震と水害、土砂崩壊といったものがまず考えられる地形となっ
ております。それにつきましての内容を、私ではなくて斉藤から説明させていただきます。
今後は、継続しての、これを作っただけでいいということではなくて、これをもとし
まして継続した防災教育、訓練のサポートを、我々防災士の会は徹底して行っていきま
すので、各地区、それからコミュニティ協議会、町内会からそういったものに対してお
手伝い、頼むということがあれば、いつでもお引き受けいたします。

それでは、内容を少し説明させていただきます。

(新潟市防災士の会新津支部)

皆さん、こんにちは。ちょうど1年前まで、皆さんに大変お世話になりました、斉藤
です。

今、いろいろお話がありましたけれども、この防災士の会で一番作ろうと思った動機
は、日常の生活の中で非日常的な災害に対して、皆どのようなことを考えているのだろ
うかという疑問点、自問自答してみますと、やはりあまり考えていないなど、普段何も
思っていないなどという方が非常に多いと、私も含めてですけれども、そのような感覚が
あります。やはり防災士の会としましては、そういった感覚を少しでもお互いに共有で
きればという目的で、この防災手帳を作成という形で始めました。小林部会長、それか
ら青木さん、いろいろな方からご尽力いただきまして、ご協力いただきまして、ようや
くこれが出来上がりました。実際に小須戸地区の山の手コミ協、あるいは新津本町2丁
目、小林さんの会でございますが、あるいは金津地区の防災活動、あるいは第五中学校
の防災教育という形の中で1年間活動してきましたが、やはり始めたばかりですので、
今後二、三年かけて中身を精査して、また皆さんのお役に立てられればいいと考えてお
ります。ぜひ、我々を大いに利用していただいて、先ほどの日常生活と非日常生活の、
いわゆるフェーズフリーと言いますが、皆さん、よくバリアフリーという言葉はよく聞
くかと思いますが、バリアフリーというのは段差の解消なのですからけれども、フェーズフ
リーというのは意識の壁をお互いに取り除いて、日常であつても非日常のことを考えよ

うと、月一回でもいいから考えようと。私どもが提唱します家族防災会議などと言いますといかめしい言葉になるのですけれども、防災について一家で、避難場所はどこか、あるいは避難経路はどこだ、あるいはどのような災害がくるかというようなことを、いろいろ子どもさん、あるいは家族で話し合っていて、少しでも防災について意識を高めていきたいと考えます。

そういった意味で、少し長くなりますが、そのためには、やはり今すぐできる防災とは何だということを考えていただきたい。要するに、この前、13日でしたでしょうか、宮城県沖の地震がありまして、この辺も相当揺れました。そのとき、午後6時頃でしたので、ちょうど夕飯時でしたから、そのようなことで感じたのは、まずできることは、家具の転倒防止だと私は考えております。私の家は、全部転倒防止をやっておりますが、テレビの転倒防止、冷蔵庫の転倒防止、食器棚の転倒防止、タンスの転倒防止、いろいろなものがあるかと思うのですが、まず転倒防止をあまり費用をかけずに災害対策ができるかなということを改めて感じたところです。

あまり長くお話ししますとくどくなりますので、この辺で終わらせていただきます。ご静聴ありがとうございました。

(金子会長)

新潟市防災士の会秋葉支部の皆様、ありがとうございました。では、質問がございましたらどうぞ。挙手をお願いいたします。

(渡邊委員)

質問といいますより、情報提供です。私、新栄町に住んでおりますが、防災手帳のフォントが少し小さすぎると、そのまま裸眼では高齢者の方にとっては見えにくいということでしたので、ぜひ発展的に作られるときには、字の大きさなどを考えていただけるとありがたいという点の一つ。

もう一つは、消防署で冷蔵庫の中にご自身の持病ですとかお薬などについて入れておくという取り組みを、その情報について入れておくという取り組みをされているようなので、そちらと連携されるのもよいかなと思います。

(金子会長)

ありがとうございます。どうしてもこれだけは聞きたいということはございますか。

(長谷川委員)

長谷川です。

第2部会で、この手帳を作る前段階で防災士の会の方の説明を聞かせていただきました。小須戸地区は、全戸配布されたのですけれども、コミュニティ協議会の会長もいら

っしゃいますので、ぜひ地域で防災教育ができるような取り組みをお願いしたいと思って手を挙げました。よろしくをお願いします。

(金子会長)

おっしゃるとおりかと思えます。ありがとうございます。小林さんもですか。時間がかなりおしております。皆さん、ご協力お願いいたします。

(小林委員)

少しなのですが、今、おっしゃられたように、確かにこの防災手帳というのは、作っただけではまだ何の役にも立っていないので、私、前にも少しお話ししたのですが、自主防災会があるのですけれども、半分死んでいるような状態なので、ぜひコミュニティ協議会の会長たちのお声かけで、各町内でもっている自主防災会を動かしていただいて、この防災士会の皆さんを呼んでいただいて、ぜひ活用するような方向にやっていただいたら、ここの自治協議会も一つ大きな役割ができるのではないかと思います。

(金子会長)

ありがとうございます。それでは、以上とさせていただきます。

では、小林さん、そのまま次の小須戸コミュニティ協議会のご紹介をお願いします。

(小林委員)

それでは、3番目「在郷町小須戸ひな・町家めぐり 2021」ということで、イントロダクションだけまいります。この小須戸のコミュニティ協議会では、今年5年目のひな・町家めぐりを企画しました。さすがに4年経ちまして、段々洗練されてかなりいいところまでできていますので、また定着もしてきています。ですから、これがこれで終わらないで、来年以降もぜひやれるように、今日はアピールしていただければと思います。

(小須戸コミュニティ協議会)

皆さん、こんにちは。小須戸コミュニティ協議会の村井と申します。

本当に、区自治協議会のきらめきサポートプロジェクト、5年間補助をいただきました。昨年からは新津中央コミュニティ協議会と協働で実施させていただきました。今年も町屋ギャラリー薩摩屋と旧わかばというところをメイン会場にさせていただきました。12日間オープンしたのですけれども、そのメイン会場は延べ1,000名を超えた入場があったということで、大変好評でありました。

今後の取り組みと次年度の課題と一番下に書いたのですけれども、石の上にも3年という言葉がありますけれども、地道に5年間やったおかげでリピーターの方も大勢来られるようになりまして、この時期は小須戸だよなという感じで、村上に追いつけるような気持ちで頑張っています。今、小林委員が言われましたように、来年は秋葉区全体で

取り組んでいきたいということで、Y o u T u b e に動画を載せたいということで動画を作りましたので、それを皆さんに見ていただければと思います。では、少しご覧いただきたいと思います。

(動画視聴)

どうもありがとうございました。このような感じで、地域の商店にも取り組んでいただきまして、コミュニティ協議会と一緒に実施させていただきました。この前反省会をやったのですけれども、コミュニティ協議会のスタッフも来年もぜひやろうということでしたし、商店も来年も協力させていただきたいという大変いい手応えをいただいております。今年も大変ありがとうございました。

(金子会長)

ありがとうございます。それでは、ご質問はございますでしょうか。

こちらの事業の取り組みに関して、よろしいでしょうか。皆さん。では、来年度は、区全体を上げてということですので、皆さん、またご協力をお願いしたいと思います。小須戸コミュニティ協議会の皆様、ありがとうございました。

では、続きまして、伊藤委員から次の事業を紹介していただきたいと思います。

(伊藤(直)委員)

ここには「新津大庄屋桂家」という名前になっていますけれども、実際、書籍名は「新発田藩越後蒲原大庄屋桂家」という書名で発刊されました。新津郵便局から駅方面にかけて桂家という大屋敷があったのですけれども、今、そこは郵便局のところに天皇教皇地という碑が建っている、そこがちょうど桂家の母屋の入口になっているのでしょうか。昔だったら近江屋という本屋があった辺り、それから加茂信用金庫でしょうか、あの間の郵便局に行く道辺りが門になっていたみたいなののですけれども、そのような位置取りだったのですけれども、今はまったく姿形も見えない。それから、痕跡とかお宝とかというものも、ほとんど残っていない。ということで、本当にあったのかどうかも分からないという状況のところなのですけれども、これを小林さんたちが中心になって紹介しようということで、これが本です。新津の大庄屋桂家ではなくて、実際は「新発田藩越後蒲原大庄屋桂家」という本になりました。大変な苦勞をされて、4年間かけて出版されましたけれども、この中でいろいろ新発見があったということです。

2月13日に出版記念講演会というものをやりまして、280名の方が参加されたと。予想を大幅に上回って大盛況で、市民の関心の高さがうかがわれました。

(金子会長)

それでは、さっそく事業のご報告をお願いしたいと思います。

(NPO法人新津郷土に親しむ会)

秋葉区きらめきサポートプロジェクト「新津の大庄屋桂家」の出版事業の実施報告を行います。私、団体名はNPO法人新津郷土に親しむ会の長橋と申します。よろしくお願いいたします。

事業報告1なのですけれども、大庄屋桂家は、4年前から調査、研究を進めてきました。目的は、新津の宝ともいえる大庄屋桂家の功績をまとめるためです。桂家は、少ない土地しかないにもかかわらず、新発田藩では筆頭の国庄屋として徴用されてきました。大庄屋桂家を、新津地区はもとより周辺の皆様にお知らせするには、私たちの会だけでの力ではあまりにも力不足でした。そこで、秋葉区自治協議会の皆様のお力をお借りして広報したいと思い、きらめきサポートプロジェクトに応募しました。このプロジェクトにより書籍をまとめ、書籍を発行し、出版記念講演会を開催することができました。ありがとうございました。この書籍の題名は「新発田藩越後蒲原の大庄屋桂家」です。

次に、実施報告2です。書籍の出版と同時に、今年の2月13日の土曜日、ご覧のような次第で秋葉区文化会館にて出版記念講演会を開催することができました。コロナ禍での開催で、定員の約半数の入場制限を行いました。予約が殺到し、かなりの方々をお断りすることになりました。盛況のうちに出版記念講演会を終了することができました。本当にありがとうございました。また、当日の会場準備などは、新津中央コミュニティ協議会の皆様やまち歩きの皆様のお手伝いをいただき、滞りなく行うことができました。さらに、自治協議会の担当委員の方々、区役所の地域総務課の方々からもいろいろお手伝いをいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

次に、実施報告3です。当日の出版記念会には、夏目区長をはじめ秋葉区選出の市議会議員の皆様にお越しいただき開催いたしました。また、当日は、予約を断られた方々がキャンセル待ちを承知で待っていただくほどの盛況でした。最終的には、先ほど伊藤委員からもありましたように、280名ほどの入場で、一部では立ち見が出るほどの盛況でした。ありがとうございました。

実施報告4です。講演会では、桂家第十二代桂宗家桂誉宜様ご夫妻をお迎えしてごあいさつをしていただきました。そして、来賓講演として日本の歴史文化研究の殿堂、独立行政法人国立文化財機構なら文化財研究所の目黒新悟先生に来賓講演をお願いしました。演題は、「桂家住宅とその大工」でした。

書籍の無償配布についてです。きらめきサポートプロジェクトの予算を活用させていただきました。国立国会図書館、新潟県立図書館、新潟市歴史文化課をはじめ、60冊を贈呈させていただきました。今回は、予算不足により、新潟市立の図書館には4冊しか

配布できなかったことが心残りです。本日、秋葉区 11 コミュニティ協議会の皆さんには、事務所で閲覧していただきたく 1 冊ずつ贈呈をさせていただきました。秋葉区自治協議会の皆様方には、協働の精神のもとにご協力いただき、深く感謝を申し上げます。

次に、実施報告 5 です。今後の広報活動の一つ、書籍販売についてです。新津本町の新津大阪屋、村木呉服店、本の店英進堂の 3 か所で販売を続けています。新津の大庄屋桂家を知っていただくため、ぜひともご購入をお願いいたします。

次に、実施報告 6 です。今後の相乗効果、波紋についてです。今回の出版により、相乗効果として五つの動きが寄せられています。一つ、この書物に沿った講演会をシリーズで開催します。2、桂家関連のまち巡りの動きがあります。例えば、田家の大善庵を中心としたバスツアーの企画などです。それから三つ目、日本薬科大学より新津の紅茶を再現したいとの話がきております。四つ目、全国良寛会より、講演依頼の話がきております。五つ目、新発田古文書研究会と一緒に新発田市立図書館に所蔵されている古文書を掘り起こし、調査・研究を開始いたします。以上が、今後の相乗効果についての内容となります。

以上で、新津の大庄屋桂家の出版事業の報告を終わります。ご静聴ありがとうございました。

(金子会長)

NPO 法人新津郷土に親しむ会の皆様、本当にありがとうございました。ご質問がございましたら、挙手をお願いいたします。

(保科委員)

山の手コミュニティ協議会の保科と申します。ご苦労さまでした。

一通り目を通させてもらったのですが、その中で、今現在でも行こうとか、あとは見れるとなると、なかなかないのですね。桂家に関しては。菩提寺は正法寺ですか。

(NPO 法人新津郷土に親しむ会)

違います。新津ではありません。葛塚の龍雲寺です。今管理しているのは、北区の永勝寺です。

(保科委員)

そちらですか。そのお墓の歴代の名前がいろいろ載っておられたのですけれども、そこというのは、そのお墓は普段行って見られるのでしょうか。

(NPO 法人新津郷土に親しむ会)

はい。見られます。

(保科委員)

名前がいろいろ書いてあったみたいですがけれども。

(NPO法人新津郷土に親しむ会)

正法寺のところが見られます。

(保科委員)

正法寺、何かその柵みたいな感じがありましたけれども。

(NPO法人新津郷土に親しむ会)

大丈夫です。

(保科委員)

大丈夫ですか。あそこは近いし、あそこに行ったらいいかなという感じがしたので。ありがとうございます。そのうちに行ってみてみたいと思います。ありがとうございます。ありがとうございました。

(金子会長)

ありがとうございます。駆け足で申し訳ございませんが、時間がございません。次に移らせていただきたいと思います。

では、続いての事業は、宮腰委員からのご紹介ということでお願いします。

(宮腰委員)

支え合いのしくみづくり推進員の宮腰由紀子でございます。よろしくお願ひいたします。

新津中央コミュニティ協議会の提案事業「折り紙によるつるしびなの豪華競演」の報告でございます。この事業の一番よいところは、年齢や性別に関係なく誰でも参加でき、皆さんが喜んでひな飾りを作ってくださっているところだと思っております。今回で2回目となりますが、どの作品も昨年以上に工夫が施され、パワーアップされておりました。また、今回は、三世代にわたって参加して折り紙を作ってくださったという、心温まる話も耳にしております。この事業は、地域の方々に愛されて育てていただける事業だと考えております。来年度の発展に大変期待しております。ありがとうございました。

引き続きご報告をお願いいたします。

(新津中央コミュニティ協議会)

こんにちは。新津中央コミュニティ協議会の小山と申します。

今回、この事業「折り紙によるつるしびなの豪華競演」を担当させていただきました。当初「鉄道のまち新津ひなとお宝巡り」とありましたが、コロナ禍のために商店街が不参加となりまして、事業名を変更して実施いたしました。期間は2021年の2月1日から3月7日、交流センターで、自治協議会の皆さんにご指導いただきながら協働で実施

することができました。ありがとうございました。今年で2年目の事業ですが、保育園、こども園、幼稚園、介護施設、小学校、中学校、地域の茶の間なども参加していただき、34団体44校となりました。今回60センチの輪を使いましたが、去年は40センチのものでしたので、外周で1.5倍の大きさでかなりきらびやかに飾れたと、そのように思っています。

次に、説明会の様子です。11月11日と12日の二日間、参加希望団体に集まっていたきまして説明を行いました。去年の状況説明とか、輪っかの作り方とか吊るし方とか、身をもって実演させていただきまして、材料をその分配布いたしました。これは、子どもたちの製作風景です。子どもたちが楽しそうに作っている様子なのですが、保育士の指導により立派な折り紙のつるしびなができあがりしました。載せきれないほどの写真が各団体から届いておりまして、ただいまコミュニティ協議会のテレビモニターで常時放映しております。

次に、交流センターの状況については、このコミュニティ協議会の部員約30名が老体にムチ打ちながらこの数を吊り上げました。左側のように、展示は子どもたちが触れられるくらいの高さにしました。去年は150センチくらい上げたのですが、今年は手が触れるくらいにしました。壊れるのではないかと心配していましたが、まったく問題ありませんでした。自分たちが作ったものを見つけて、わーわーと大はしゃぎでした。大変ほっこりしました。心が大変和みました。この気持ちは、皆さんご覧になったと思いますが、見た人にしか分からない、本当にいい気持ちでした。右の写真は、夏目区長、ここにおられる東村市議会議員に来ていただきましたときの写真でございます。大変ありがとうございました。これは、交流センターの上から見たものが左側の写真です。圧巻でした。右は、子連れ、楽しそうでした。本当に楽しそうに見ていただいております。これは、左は子どもたちが飛び回って遊んでいるのですけれども、また右のように、きらりんも来てくれまして、ちょうどどのときラジオ体操時間になりまして、皆で楽しく、子どもたちとラジオ体操を行いました。暖かくなってきて、参加者も増えましたので、ぜひ皆さんもご参加いただければありがたいと思っております。平日の9時45分から毎日行っております。

先ほど、大型モニターですけれども、少し紹介しますと、コミュニティ協議会前に設置しておりまして、毎日ラジオ体操はじめ、今年度行った行事や今回のつるしびなの写真を常時放映しております。平日に限りますがやっております。これは、子どもたちがそのモニターを眺めて、自分の行っているところがいつ映るのかと楽しみにずっと見ているのです。いつくるのと言われても困ったなと思って、すぐ順番の名簿を作ったので

す。少し待って、もうすぐ映るよと言って待たせておきました。子どもたちと話していると、本当に楽しいです。これは、小須戸が送ってくれた手作りのひな人形です。これは、右のほうに、テレビモニターの前にいつも並べて、切らすことなく並べておくのですけれども、小須戸の方が、こちらの二人の方が、切らすことなく持ってきてくれました。来場者の皆さんは、いいのですかと言いながら、喜んで皆持って行きました。小須戸コミュニティ協議会には、大変ご指導ご協力いただきまして、大変ありがとうございました。

次に、記念撮影をさせてもらった写真です。広報紙、顔がモニターに映りますと言いながら撮影をお願いしましたが、誰一人断る人はいませんでした。即プリントし、お渡ししました。試しに一回プリントを持って行ったのです。そうしたら、すごく喜んでくれたのです。このようなことで喜ばれるのだったら続けようと思ってやってみました。特にこの右の老夫婦とお孫さんのときは、ありがとう、冥途の土産ができたと本当に感謝されまして、ぐっときました。これは続けていかなければいけないですね。ぜひ続けたいと思っています。次回はもっといい方法で定着させたいと思いました。

アンケートの結果は、大変よかったがほとんどです。毎年やってほしいというのものも、100パーセントに近い回答をいただきました。また、この期間中に来てくれた人たちは、約3,000人でした。土日祝祭日は、交流センターの休みが一日あったのですけれども、11日間開けたのですけれども、2,000人ほど集まりました。平日は、ちょうど幼稚園の子どもたちの散歩コースで、団体で訪れてきて、華やかで本当によかったです。土日はお子様連れの家族に大変多く来ていただきました。この人数をこの交流センターだけに留めておくのは大変もったいないと、そのように感じて見ていた次第でございます。

最後に、この行事は、誰もが気軽に参加できます。見に来た人の誰もがほっこりする気持ちになります。中越方面のつるしびなどは一味違った折り紙によるつるしびなどとしてアピールができます。区民皆が参加できる催しとして取り組んでいくことを常に望んでおります。以上、ありがとうございました。

(金子会長)

新津中央コミュニティ協議会の皆様、ありがとうございました。では、質問がございます方は挙手をお願いします。特にございませんか。

では、以上で五つの事業すべてのご報告をさせていただいたわけですが、全体をとおしまして、何かさらに質問などがあるという方がいらっしゃいましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。それも特にございませんでしょうか。

ないようでしたら、以上をもちまして次第2番の「きらめきサポートプロジェクト活

動報告について」はこれで終了させていただきます。本日お越しくございました5団体の皆様、本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願ひいたします。皆さん、もう一度拍手をもってお礼を差し上げたいと思います。ありがとうございました。

(3) 区自治協議会提案事業事業評価について

(金子会長)

それでは、司会席に戻らせていただいて引き続き議事を進めたいと思います。

では、続きまして、次第の3番に移りたいと思います。「区自治協議会提案事業の評価について」ということで、こちらは各部会長からご説明をお願いしたいと思います。では、まず第1部会の小林部会長、お願いいたします。

(小林委員)

第1部会の小林でございます。

きらめきサポートプロジェクト、5年目が終わりました、先ほど報告を受けたとおり、前と何が違うのかなと思いましたが、次の年にどんどん続くような、そういう事業が今回は特に多かったのかなと思います。ぜひ自治協議会、そしてまた秋葉区の役所として応援して、育てていていただきたいと。特に担当の役所の方々には、ぜひそこに夢をもって一緒に取り組んでいていただければありがたいと思います。

(金子会長)

ありがとうございます。まず最初に一通りご報告いただきたいと思います。続きまして、第2部会の佐藤部会長、お願いします。

(佐藤委員)

第2部会でございます。どの部会もそうですけれども、今年は、特に第2部会は、コロナ禍のためにいわゆる話し合いしかなかったという結果になりました。その中で、話し合いが中心でしたけれども、そのまとめということでこの評価を出させていただきましたので詳しいことはご覧いただきたいと思います。

2枚目の表、第2部会の1ページですけれども、一番下の評価の下のところをご覧いただきたいと思いますが、まず交通環境についてです。公共交通についてでございますが、実態的には環境としてはそれほど変わっていないのだけれども、いわゆる高齢化が進んだということ。それから、公共交通機関といいますか、バスとかそういうものは少し変化しているということ。それから、一番変わっていることは、買い物等の環境が変化、いわゆるスーパー等に集中した形のような買い物環境になってきているようなことが挙げられるかと思ひます。そのようなことで、実際に困っているのはどのようなこと

なのかということがよく分からなかったというのが現状でございました。それでも、当部会は、4割近くの方が民生委員でありましたので、その方々から細かい本当に具体的なお話をお聞かせいただいて、実際の困っている方々の実情を知ることができたということが、やはり一番の成果だったかなと考えています。頭の中で考えたのではなくて、実際にその方々と接している方々の認識といたしますか、そのようなことを教えていただいたということが一番だったかなと思っております。

次、めくっていただきたいと思います。では、それについてどのように考えましょうかということで、私たちは、その辺何もできなかったのですが、次期に期待するということで、やはり先ほど申し上げた民生委員の方々から教えていただいた、本当の実態を聞いたまではいいのですけれども、もう少し分析できるようなアンケートをしなればいけないのではないかと考えております。そのためには、対象は一般的ではなくて、本当に困っている方々の実態を調べる。そのためには、アンケートだけではなくて聞き取り等も必要ではないかということで、民生委員の方々の力を借りなければいけないのではないかと考えております。

もう一つは、やはり今はいいのですけれども、10年後になりますと、私も含めまして、ここにいらっしゃる方の大多数になるかと思っておりますけれども、足がなくなってしまう。運転免許証も返納しなければいけないというような状況になるかと思っておりますけれども、そのときに、やはり生活の足をどうやって地域として確保していくか。その辺について検討しなければいけないのだけれども、しかし、今のところそういう切実感もありませんので、そういう認識を高めるといいますか、そういうものを求めて、大切な生活の足を、その後を広げるという意味で、何かしらの活動ができるのではないかと、今のところ考えております。

それからもう1点、地域の福祉施設との連携づくりということで活動したのでありますが、これについては、昨年度は外出促進の事業が中心になってしまいましたので、11月過ぎからこれらの作業に入ったのでありますが、今年がいわゆる実際の活動の中心になってきたわけでありまして、しかしコロナ禍で非常に活動できなかったということが上げられます。その中で一番反省したことは、福祉施設の要望といたしますか、地域とどのようにつながりたいと思っているのかどうか、それについてよく分からないし、地域自体が福祉施設とどのようなかかわりをもたなければいけないのかというあたりがよく分かっていないということが上げられまして、やはり自治協議会としてやれるべきことは、自治協議会が知りえた情報を提供すること。それがやはり一番なのではないかと。そしてあとは、それらについて、もちろん意識の高揚ということはありませんけれども、まず

情報を提供することが一番なのではないかということで、今、社会福祉協議会が進めている、そこに書いてありますが、そのような活動の結果について地域に流して、そして地域の意識を高めていく。それから、福祉施設に対しても、そのような情報を流して意識を高めていく。しかも、今年きらめきサポートプロジェクトで防災カードを作っていただきまして、防災士の会の方々とのつながりができましたので、防災士の方々の福祉施設との結びつきも考えていったほうがいいのではないかということで、その間をとろうということで、今、第2部会では、次期の委員の方々にお願いしたいと考えております。

(金子会長)

ありがとうございます。では、次に第3部会の島倉部会長、お願いします。

(島倉委員)

第3部会の報告です。

令和元年度の後期の「あきは子ども大学」が、コロナの関係でできなかったのです。そこで、ぜひともその残りの計画を実践していこうということで、落ち着いた時期を見計らって、コロナの感染をしないようにいろいろ工夫をいたしまして、11月28日に金津焼の陶芸体験と工業高校の見学をいたしました。

評価ですが、私たちは、いつも区の子バスに子どもたちを乗せて会場まで行き来していたのですが、それは少し無理だということで、現地まで保護者の方から送迎をお願いして、そしてマスクはもちろん手指の消毒をきちんとして、全員で行動するのではなくて、2グループをつくって密にならないように、金津焼と工業高校体験をやりました。その中で、やはり子どもたちは本当に、もちろん工業高校の見学、初めて見る日本建築とか、いろいろな機械とか、そういうものに目をきらきらさせていました。それと同時に、先生方が本当にとてもユーモア溢れる先生で、子どもたちをすごく魅了して、子どもたちもくっついていくという、そういう人的な魅力も子どもたちが感じてくれました。陶芸家の押味さんに対しても、すごい手でいろいろなものを作り上げるところにも興味をもってくれました。

今回で一応「あきは子ども大学」は終了するわけですが、今度、これを大人大学に引き継いでいこうということで、また新しい委員の方といろいろ計画をし、今までのコロナの体験を教訓にして、新津の宝を体験して、広く市民の宝を皆さんに発信していけたらいいと思います。あと、詳しいことは、この報告を見ていただけたらありがたいと思います。

(金子会長)

ありがとうございました。では、最後に広報部会の田中部会長、お願いします。

(田中委員)

広報部会の田中です。

いろいろ秋葉区の特徴を活かしまして、コミュニティFM、それからかわら版、これを活用しましてPRを行ってまいりました。やはり地域密着のコミュニティ放送ということで、各部会の提案事業とか、その紹介とか、今やっている実況的な報告なども、各部員に出演を依頼いたしましてどんどんやっていただきました。その中で、自治協議会のどのようなメンバーがどのような活動をしているかということも、委員が出たことによって区民の関心を高めることができたのかなと思っております。

地域がかかえる課題を区民の声として伝えるためには、このコミュニティFMは大変有効な広報手段であると思っております。そこで、さらに聴取率を上げるため、リスナーのアンケートを実施するというのも、以前からそのようなことも言われておりましたが、実際、その辺のところはまだやっておりませんが、ではどうやってアンケートを取ったらいいのかなと私も少し思ったのですが、まずはこの自治協議会の委員の声をアンケート方式で聞かせていただいて、そしてその辺のところを議論しながら、またどのようにやったらいいかということを検討していくことも必要なのかなと思いました。

それから、この会議で、大変活発ないろいろな意見も出ておりますけれども、この本会議の様子を発信することができたらいいのかなと。本会議の議事録は、秋葉区のホームページで見ることがもできます。加えて行政サイドからのいろいろな報告事項とか、その中の質疑応答とか、その辺のところがありますけれども、その辺のところはFMの放送の中でも、委員からいち早く一部が話の中で出たら、もう少し関心も出るのかなとも思っております。

それから、かわら版ですが、あきはくはつものがたり、これは、自治協議会を区民の身近に受けとめていただく、紙で報告するというのも、これは大変いいことだと思っています。これも区民の主導ということ、この辺のところを意識しまして、かわら版の編集委員、また皆さんにいろいろな原稿を依頼した際に快く引き受けていただきまして、本当に編集委員として大いに助かっております。ありがとうございます。

それから、新型コロナの感染が拡大したということで、安全と健康を最優先としまして、区内の全世帯に配布されているかわら版なのですが、この度配布方法が新聞の折込ということになりましたけれども、不便を感じているという方も区民の中にと聞いております。かわら版は、やはり自治協議会の活動を実際に確実に広報する媒体であると思っておりますが、配布方法については、やはり以前からの自治会経由にでき

ないのかなと思っております。

(金子会長)

ありがとうございました。それでは、もう1点だけ、常設の部会の枠からは外れるのですが、秋葉区民幸福度調査に関しまして、私から簡単にご報告させていただきたいと思っております。

昨年の秋以来、こちらの会議でご報告をいたしているとおりののですが、今年度は3回の企画会議を経まして、調査票の設計というところまで実施することができました。内容的には、本会議でも皆様からたくさんのご意見をちょうだいしまして、結果としてかなりバランスのいい、とてもいい内容の調査票ができたのではないかと考えております。これをもちまして、来年度前半のうちに調査を実施し、その後の秋葉区自治協議会であったり、秋葉区のまちづくりに関する施策等に反映していくために重要な資料としていきたいと思っておりますので、またその点を第8期に引き継ぎたいと思っております。

以上ですべて事業評価に関するご報告をさせていただいたわけなのですが、いかがでしょうか。全体をとおしまして、皆様からご質問等がございましたら挙手をお願いします。

特にございませんでしょうか。

(小林委員)

私、今期で6年、卒業させていただきますが、第1部会のきらめきサポートプロジェクトの提案者として、一つだけぜひ次年度に続けて意識していただきたいということがありまして、一言お話しさせていただきます。

このきらめきサポートプロジェクト、役所から補助金をいただいてというよりも、全額出していただけるわけですが、自治協議会の委員、そして団体側、そしてまた市の担当者、三者が知恵を絞り合ってお互いに学習しながら事業をやっていくというのが、このきらめきサポートプロジェクトの一番大事なところがございます。通常の補助金みたいにいわゆるお金の使い方を役所が管理するというだけの話ではなくて、役所の担当者がその事業に入り込んで一緒にやることによって、担当者も勉強できるし、また育っていきますし、自治協議会の委員もいろいろと学習できるということで、三者が大変いい関係になっていくというのが、このきらめきサポートプロジェクト一番大事な部分かなと思います。ですから、その部分がなくなると、他所のところでやっている補助金事業と変わらなくなりますので、ぜひともその辺、特に市の担当者の皆さんには、楽しい事業であれば、ぜひ中に入ってその夢を育てていただきたいと希望いたします。

(金子会長)

ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。

(渡邊委員)

渡邊です。

広報に関してなのですけれども、10代から30代の方々にこの情報が届いているのかなというところでして、今ほど田中委員からのお話を伺いながら政治というか、自治に関する関心呼び起こすという意味でも大事なのではないかなと思ひまして、ぜひ今後、例えばですけれども、新津高校などは放送部がとても有名ですし、何かその年代、若い世代とも関連させながらSNS等のツールも活用を、今もされている部分もありますが、さらにしていくことができたらいいのではないかと思ひました。

(金子会長)

ありがとうございます。今、質問、ご意見を報告に続いていただいているところなのですけれども、それは、確実に次期に引き継ぐためにも、第8期に残られる方は、ぜひ、今皆様がされる発言をしっかりと一人一人が覚えておいていただいて、忘れずにそれがきちんといい方向に向かって反映されているかどうかということも引き続き見ていただければと思います。ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、ただいまの事業評価表に関しましては、冊子になっているものを、次期、8期に委員に就任される皆様に配布するという形で引き継いでいくことになっております。そのようなことで、皆様、本当に第7期、部会の活動を中心とした秋葉区自治協議会の運営、誠にありがとうございました。

では、以上で次第3「区自治協議会提案事業評価について」を終わらせていただきます。ありがとうございました。

(4) 第8期秋葉区自治協議会委員の推薦について

(金子会長)

もう少し続けてまいりたいと思います。次第4「第8期秋葉区自治協議会委員の推薦について」ということで、委員推薦会議座長の小林委員からご報告をお願いします。

(小林委員)

推薦会議の座長の小林でございます。

資料4をご覧くださいながら、推薦名簿をご覧くださいながら聞いていただきたいと思ひます。2月の本会議で未選出だった団体からの選出者について推薦させていただきます。コロナ禍でございますので、手紙とかメールとか、そういったもので会議をやり

ました。その結果、番号の6番目、1号委員ですが、阿賀浦コミュニティ協議会からは坂口憲夫さん。それから22番目、これは2号委員です。2号委員の一番下ですが、白井孝明さん。そして、少し上に上がりますが16番目、新津青年会議所からの選出者の変更について申し出がありまして、横山喜規さんを併せて推薦いたします。

14番の小須戸商工会につきましても、未だ選出されていませんので、4月の時点では29人でのスタートとなりますが、変更の際には委員推薦会議の開催のうえ、本会議に諮らせていただきたいと思います。

以上、私ども委員推薦会議は、3名の方を推薦いたしますので、ご審議をよろしくお願いいたします。

(金子会長)

ありがとうございました。では、ただいまの件につきまして、ご質問等がございましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

よろしいでしょうか。特にないようでしたら、推薦会議から出していただいた結果のとおりということで決定とさせていただきますと思います。

では、以上をもちまして次第の4番「第8期秋葉区自治協議会委員の推薦について」を終わらせていただきます。ありがとうございました。

それでは、また1時間以上経ってしまいましたけれども、早目に終わってしまいそうなところがまだいくつかありますので、そこだけ終わらせてから短い休憩とさせていただきますと思います。

(5) 新型コロナウイルス感染症の影響に関するアンケートにかかる報告書の提出について

(金子会長)

次第の5番「新型コロナウイルス感染症の影響に関するアンケートにかかる報告書の提出について」ということで、こちらは、私から資料を作成したものに基いてご報告、ご説明をさせていただきますと思います。資料の5番をご覧ください。

皆様ご存知のとおりですが、秋葉区自治協議会では、今年度、そこに書いてありますとおり8月19日から年を越して2月22日までの間、コミュニティセンター、Web上を中心として新型コロナウイルス感染症に関する不安であるとか、困っていることとか、そういったことを自由に投稿いただけるような意見を募集して、アンケートを回収しました。その結果、27件の有効な回答が寄せられまして、小学校区ごとにお住いのところを書いていただいているのですけれども、かなり満遍なくご回答いただけたような状況

になっておりまして、それをまとめて、今般、夏目区長あてに報告をするということでこの資料をまとめさせていただきました。

大まかにどのような結果だったかということ、ご覧いただければよろしいかと思うのですが、特徴的だったのは、裏を返していただきますと、どちらかというと新型コロナウイルス感染そのものへの不安というよりは、それによって生じる社会の混乱、人が集まることができないとか、きちんと物事が動かないとか、そういった派生する部分に対する不安というものが圧倒的に多かったという傾向が見られました。あとは、正確な情報をもっとしっかりと伝えてほしいということですね。その2点が非常に特徴的だったかなと思っています。その辺りを結果としてまとめさせていただきます、皆様のご承認を得られましたら、このような形で区長にも提出したいと思っております。ちなみに、前回お配りしました全てのデータ、あれも添付する形で報告する予定となっております。説明は、以上でえす。

この件に関しまして、ご質問等がございましたらお願いいたします。

(阿部委員)

荻川コミュニティ協議会の阿部です。

何回かマスクのことを伺っているのですが、特に変異株が出てきて、子どもの感染が我々年寄りにくるといのが怖いと思っていて、子どものマスクに関しては、一時、子どもはしなくていいのだとか、いろいろな情報が飛び交っているのです。見ていると、子どもたちは、遊ぶときはほとんどマスクをしていません。そのときに、マスクを着けようよと言っていいのかどうか、どなたか教えていただけたらと思うのですが。

(金子会長)

この件に関してと少し違いますけれど。もしその辺何か、いかがでしょうか。事務局の皆様。

(事務局)

秋葉区教育支援センターの栗田です。

学校では、1年間かけて、その時々状況を見ながらガイドラインというものを作りまして、学校生活では指導してまいりました。当然、家に帰ってからの生活も指導なのですが、目が行き届かないというところもありますので、その辺り、保護者の協力をいただきながら適切な感染防止対策をとっていく必要があると思うのですが、なかなか遊んでいる子どもたちの状況まで把握できないというのが実情でございまして、やはり地域の皆さんからも一声かけていただければありがたいと思いますし、決してマスクを外して遊んでもいいのだというようなことは認めているわけではないということをご承知

おきいただきたいと思います。また、学校にも、機会を見まして、教育委員会をとおしてそのように働きかけていけたらと思っています。

(金子会長)

ありがとうございます。ほかに何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

では、こちらで用意させていただいた資料の形で夏目区長に提出したいと思います。

なお、これもまた8期への引継ぎになると思うのですけれども、やはり区民の声をしっかりと集める、それを行政に届けるというところが、まず私どもの第一義的な使命だと思っておりますので、今後もコロナ禍が長引くということが予想されます。コロナ禍だからといって特別に声を集めるのかどうなのかということも、また第8期に期が変わりましたら議論をして、このような声を集められるような仕組みを何らかつづけていければいいのかなど、個人的には思っているところです。その辺を申し添えましてご報告に代えさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

(6) 第3回自治協議会会長会議の開催について

(金子会長)

では、もう一つ、これはすぐ終わりますので、次第の6番です。「第3回新潟市区自治協議会会長会議の開催について」、これも私からご報告をさせていただきます。資料の6です。ご覧ください。

こちらも、また後でじっくりお読みいただければと思うのですけれども、この第7期の2年間に振り返るといって、各区の自治協議会の会長が、それぞれどのような取り組みをしたか、どのような課題があるかということ、市長にご報告をさせていただくといったような内容でございました。私から、秋葉区の取り組みとして、非常に議論も活発ならば、部会ごとの活動も非常に活発であるという点であったり、委員の研修会とか、さまざまな工夫をして意見の集約に努め、それを施策に反映していったようなご報告をさせていただきました。また、今年度の特色ある取り組みとして、今ほどご報告した新型コロナウイルスに関するアンケートであったり、区民幸福度調査というものを準備して来年度実施予定ですといった話をご報告させていただきました。

市長からは、フィードバックとして、とにかく秋葉区自治協議会の活動というものは、どのように地域の中の区民の生活であったり、区民の生活にフィードバックできるのか、そこが非常に重要で、そういうところも市と連携しながら一緒に考えていきたいということでもいただいたり、また、新型コロナウイルスに関するアンケート結果に関しては、やはり人々は、先が見えない、世の中が動かないことに関する不安を抱えているのだという

ことをご報告しましたし、市でも極力、お弁当の補助などという話も今日ご紹介がありましたけれども、皆が明るくなれるような話題、施策を準備して提供していくといったようなことを言っていただきました。

市長からではないのですけれども、市民協働課の松屋課長からは、それに関しまして、実は前々から市民協働課にお願いしていたことではあるのですけれども、コロナ禍だから何も動かせないではだめなわけなのです。こういう状況がそろえば、皆さんやりましょう、うごきましょうという条件をはっきりとしてほしいというようなことをお願いしましたら、このほど市民協働課で、まちづくりとか市民活動、地域活動のガイドライン、こういったところを満たして皆さんやりましょうというところをはっきりと示してもらえるような、そういう冊子を作成いただいたということで、それが年度を越したら間もなく配布されるということですので、それに基づいてできることをしっかりと動かしていきたいと、そのように考えております。

概ね以上のような内容でございました。いかがでしょうか。ご質問等がございましたらお願いします。特によろしいですか。

特にないようでしたら、次第の6番をこれで終了とさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

(7) その他

ア 山の手地区住民バス社会実験について

(金子会長)

次第の7番。その他もいくつかございます。最初に山の手地区住民バス社会実験について保科委員をお願いします。

(保科委員)

山の手コミ協の保科です。お手元に緑色の「山の手コミ通信」をお配りしております。読んでいただければわかるのですが、住民バスの社会実験、おかげさまで3年間やらせていただきまして、今月の末をもって一応終了という形になってしまいます。この間、運行委員会を何度も開催し、試行錯誤をしながらやってきましたが、残念ながら収支率20%にいきませんでした。31日をもって終了ということですが、反省会を踏まえまして、第2部会でやっているような、生活交通の方に活かせるような案でも出るかなと思っていますので、反省会をやって、ご報告申し上げたいと思います。3年間ありがとうございました。

(金子会長)

おつかれさまでした。ご意見、ご質問ありますか。特によろしいでしょうか。

イ 秋葉区地域福祉計画・地域福祉活動計画について

(金子会長)

では次に、秋葉区地域福祉計画・地域福祉活動計画について、健康福祉課の明間課長、お願いします。

(健康福祉課長)

健康福祉課の明間でございます。秋葉区地域福祉計画・地域福祉活動計画についてです。昨年の11月の自治協議会で概要について説明させていただいたものです。

本来なら冊子をお配りしたかったのですが、冊子の仕上がりが来週となります。追って皆さま方には郵送させていただきますので、よろしくお願いいたします。

3 閉会

(阿部副会長)

コミュニティ協議会の役員を終わった後に自治協議会というところに行くようにという命令を受けて、来てみてびっくり。区長とかがずらっといらしてびっくりしたのと、そしてこれほど長く付き合うと思いませんでした。あつという間にもう6年になってしまったので、私もこれで卒業になりますが、最後の2年は副会長ということで、閉会のあいさつだけすればいいのだなと思って軽く引き受けたらとんでもないこともありましたが、このようなつたないあいさつにお付き合いいただきありがとうございます。

本当に、皆さんからおっしゃっていただいたように、ここに来なければ出会えなかった皆様と出会えたということが本当に宝物だなと思って、これからの人生を考えているところです。今月3.11ということで、テレビで東北のいろいろな番組を見させていただきましたけれども、その中で私の心に残ったのは、女子高校生が地域の中ですごく活躍していたのです。そのときに何を言ったかという、周りに楽しい大人がいたからできたというのです。自分が小さい頃を振り返ったときに、いたいた、楽しい大人がいたなと思って、でも本人を振り返って私は楽しい大人になっていないじゃないかというのが、今、自分に突き付けられた課題なので、これからの人生は楽しい大人、子どもにとって楽しい大人になっていきたいと思えます。

ちなみに、先回も区役所の入口のお花の話をしましたけれども、今回ご覧になりましたでしょうか。新津工業高校の建築のとても夢のある設計図を見せていただいて、子どもというのは、子どもではないですね。高校生ですけれども、あの様に地味にしないでもっと派手にアピールしてもいいのではないかと思って見ていましたけれども、そこを応援する大人になっていきたいと思います。

本当にお世話になりました。ありがとうございました。終わります。